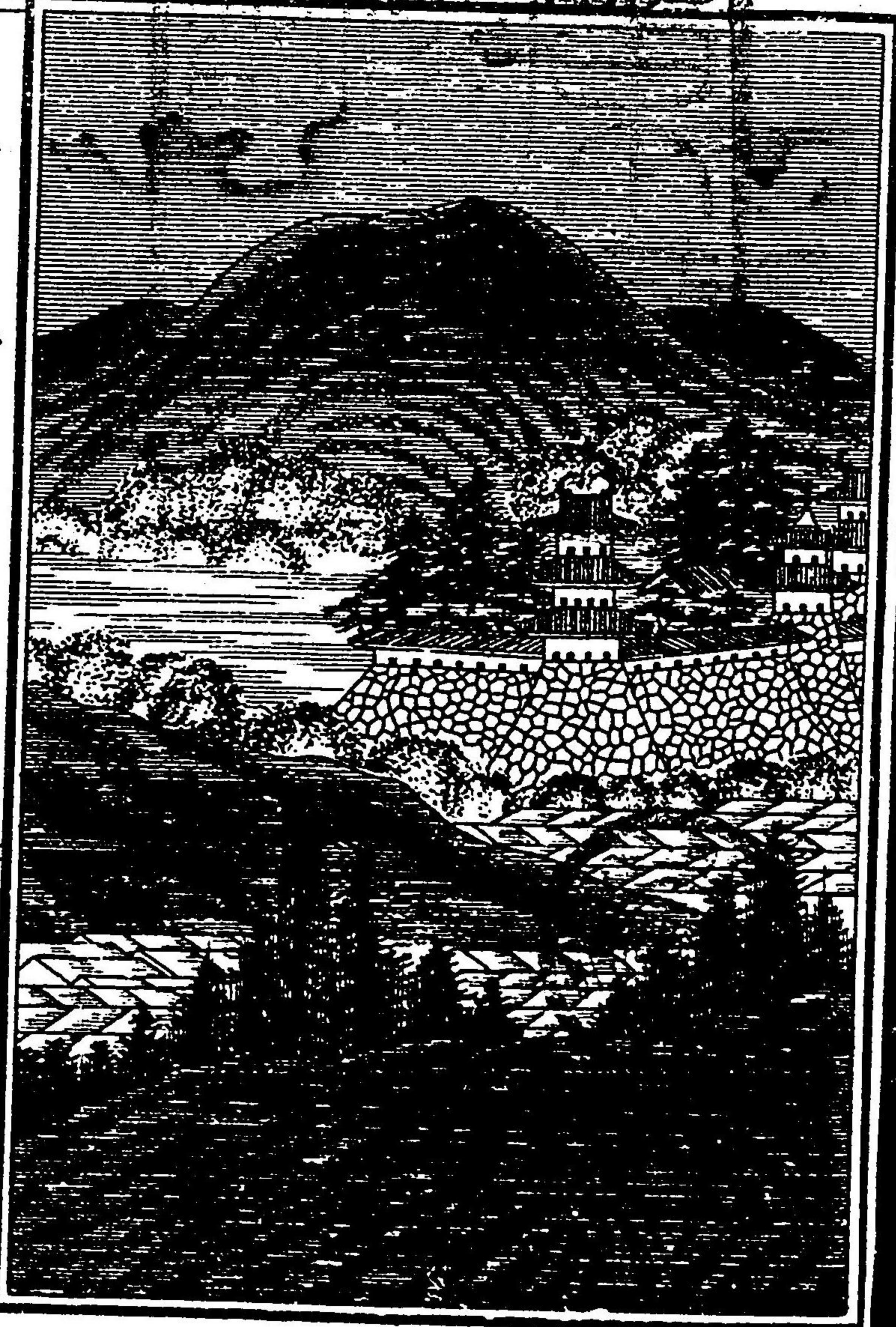


特60

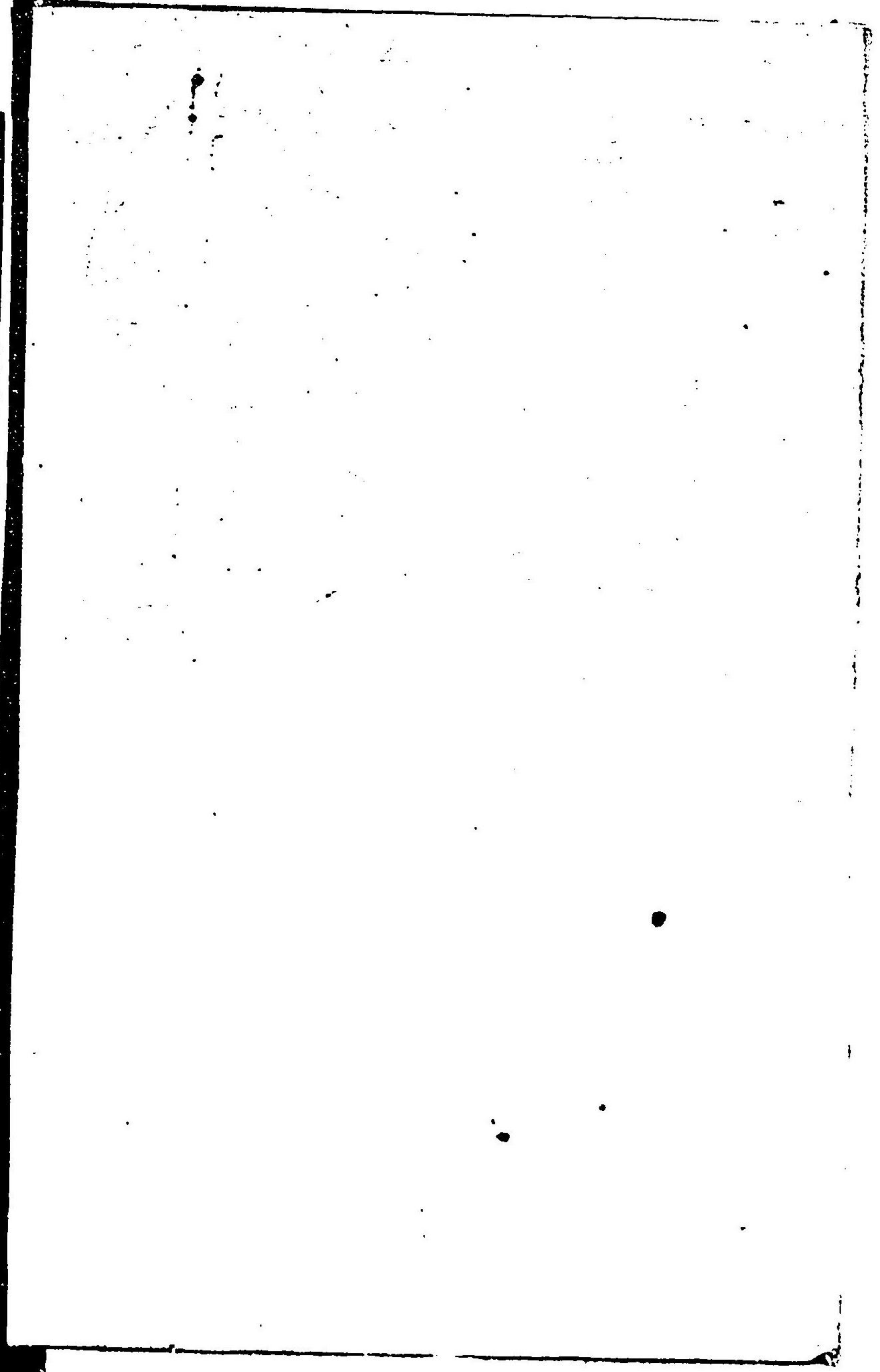
133

山石見重太郎傳
全



時 50
133

山



四海英氣
中流砥柱





山者左
中納然

重太郎



異人





大川左門

王磨ぎれハ器と為さば人學ハ
 ざれば道と知らざるとや放
 小早川家の勇士岩見重太
 戸田流の劍術の達人ふ
 て軍法の奥儀と極め
 祿三百石を領せ其
 子三人あり総領
 と重藏と呼び
 二男と重太郎
 といひ其次ハ
 子ありおとと
 或時大男重太郎ハ父ハ向ハ
 法傳授の儀とせり

●山狩川獵
 出で或ハ鹿
 猿と追廻ハ劍法と
 與子ハ馬ハ繩手細と掛
 て廣原山谷駈巡り
 又ハ深山幽谷みかけ入り
 竹木と相
 手とあり
 劍法と
 修行ハ
 けるヨ日
 上達ハ

岩見重左門



廣瀬軍藏

其方余と十二才
 ハ筋骨固らむ今年待
 リてみ其
 意み隨ひ
 けらハ
 思ハ
 劍術ハ
 武士
 弟
 あり
 我若年
 せんもろり

と夫より病氣と申立
 珍事出来
 たり重太郎
 見ハ白氣立昇リ虹のこ
 た又白氣立昇リ見ハ白
 其所より見ハ白
 長文の老翁ハ九才と
 見ハ童子
 連れ居
 たりけ
 月余
 たりニ
 たりけ



成頼権蔵

伴園右門

見よま長
長くと
高見ゆるみ
重太郎
向ひ
法説
と立合

重太郎

手を取り
風車の
あり廻
其身
と私
と我が家
立帰
人猫
風や
のて



お辻

重蔵

打負ける
てで居る
と打笑ひ
あつて
あつて

大川八左門

消失

郎の箱
宮の祭
境内の
重太郎と

隆景
見ん
見ん
見ん
見ん

出
隆景



かた

頭
重太郎を取巻
れぬ重太郎十分
姐付直知免

置く
置れ



○シマ

堅い
左右前後へ投散し其身
平伏しけり

感じ合せ

重太郎

ち
地五百石と賜りけり
板又爰は廣瀬

重左門
遺恨小思ひ
或夜重左門と鉄
地を打殺しけり

口夫より

七

岩見



頭札
重太郎を取巻
これハ重太郎ハ十分
上姐付せ置免と
置く
問



坐一ころまき左右前後へ投散し其身
て平伏しけり人々大
感し合けり
○シマ
口夫より前
地五百石と賜りけり
又爰に廣瀬

重太郎

重左王門の及
遺恨小思
或夜重左王門と鉄
打殺しけれ

ロー

七

石見



見第の敵討と願ひ

母の仇討と願ひ

父の仇討と願ひ

兄の仇討と願ひ

弟の仇討と願ひ

妹の仇討と願ひ

姉の仇討と願ひ

叔父の仇討と願ひ

叔母の仇討と願ひ

従兄の仇討と願ひ

従弟の仇討と願ひ

従姉の仇討と願ひ

従妹の仇討と願ひ

従父の仇討と願ひ

従母の仇討と願ひ

従兄の仇討と願ひ

従弟の仇討と願ひ

従姉の仇討と願ひ

従妹の仇討と願ひ

従父の仇討と願ひ

従母の仇討と願ひ

従兄の仇討と願ひ

従弟の仇討と願ひ

従姉の仇討と願ひ

従妹の仇討と願ひ

従父の仇討と願ひ

従母の仇討と願ひ

従兄の仇討と願ひ



重太郎

伴右三門

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

重太郎

岩見



重太郎

岩見



九

日替り逗留
せーふこの
弥兵三浦
屋の若かりとらぬ娼妓
ふんと奪つれ家内治ら
されり妻の重太郎と頼
ふえんいきつれ
此縁と分け呉とや
一ふりかき三浦屋
一赴き若村を尋ね
豊國人や我妹のかは





岩見



本夜より更らぬがごとく一休せんりのと見れぬ獵人の火を焚居
 たりしに來り語り合獵人を助けて大蛇を退治し
 出信州路へ差
 宿と求む
 飯田
 城下を
 不土地集社
 人と留されし
 郎不審と思能
 供と人の贅と
 同重太郎の庄屋
 庄左門の娘の代り
 妖怪と退治し
 重太郎の娘を助けて

重太郎



丹波の城下
 津の城下
 來り此處
 旅店伊勢
 才助といふ

治を頼
 ける爰の城
 中村式部大輔
 氏種公日鷹野
 狩し給ふとて

又延と敷て家内
 中拜見為す重太郎
 其延ふ列り居し
 山田と却供の内み仇廣
 頼軍蔵の見えけ
 心と静めて事主
 尊金陣笠
 何と
 舟人やと問げよ主
 のれこそ五千五百石の

岩見



土地祭社
 人を留められた重
 郎不審小思段を聞
 人身御供と人の執事と供
 聞重太郎の庄屋
 庄左門の娘小代り
 妖怪と退治し人
 身御供の根を断ち

重太郎

出信州路差
 蛇を退治し



丹後宮
 津の城下
 来り此處の
 旅店伊勢や
 才助といふもの

方来り
 泊を頼
 けり妻の城
 主中村式部大輔
 氏種公日鷹野

中拜見為重太郎
 其は延み列り
 山田と却供の内
 瀬軍蔵の見え
 静めて真
 静か



神知行
取り津田新左
工口様よりいひまゝ重太郎
と思ふやうきぢり髪は居
るくゝの権蔵八右工口
此處は居るあゝんと眼
めいやく見まゝ果して見頭
れ重太郎喜ぶ事限りあり
店主助

重太郎



●加印を頼
所へ敵討の願
書を差出しけ
るまゝ大主氏種
暗君より七国家
老倉五郎左工口
の異見は依り敵三
を討てぬや意策は
て素一の家老も言破
られ天正六年寅の十月
の重太郎

大川左門

明治廿四年
五月二日印刷
全月四日出版
編輯印刷
發行者
浅草區南九段十番地
技金之助



御知行

取り津田新左

工門様ありといふ重太郎は
又思ふやうき方幾も居

るくハ権蔵ハ右工門も

此處に居るあんと眼を定

めよく見ると果して見頭ハ

れハ重太郎喜ぶ事限りあり

旅店の主才助

重太郎



加印と頼

所へ敵討の願ひ

書を差出し

る愛み大主氏種

暗君として国家

老大倉五郎左工門

の異見を依り敵三人

と討せぬや悪策を構

て弟の家老も言破

三人の故

重太郎

大八左門

明治廿四年

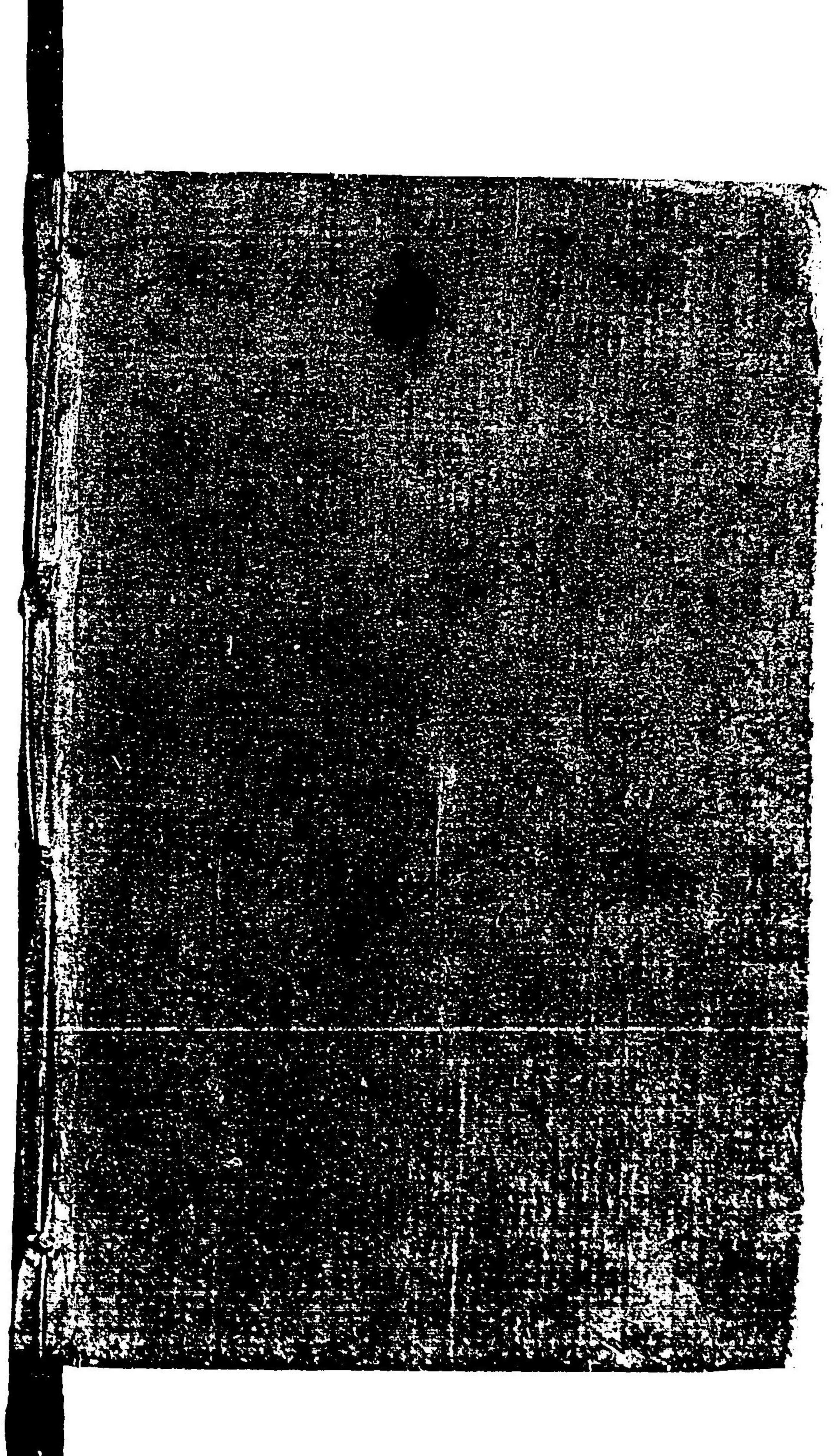
五月二日印刷

全月山日出

編輯印刷

發行所

救金之助



特60
133

091934-000-0

特60-133

岩見重太郎伝

牧 金之助 / 刊

M24

DBP-0047

